



2024年12月20日

各 位

会社名 株式会社 マルマエ  
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一  
(コード番号: 6264 東証プライム)  
問合せ先 管理本部長 下舞 毅  
(TEL. 0996-68-1140)

### 譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分に関するお知らせ

当社は、2024年12月20日開催の取締役会において、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分(以下「本自己株式処分」といいます。)を行うことについて決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 処分の概要

(1) 払 込 期 日	2025年1月10日
(2) 処分する株式の種類及び数	当社普通株式 8,456株
(3) 処 分 価 額	1株につき1,419円
(4) 処分価額の総額	11,999,064円
(5) 出資の履行方法	金銭報酬債権の現物出資による
(6) 株式の割当ての対象者及びその人数並びに割り当てる株式の数	取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除きます。) 3名 8,456株

##### 2. 本自己株式処分の目的及び理由

当社は、2020年10月26日開催の取締役会において、当社の取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除きます。以下「対象取締役」といいます。)に対して、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えると同時に、取締役と株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、譲渡制限付株式報酬制度(以下「本制度」といいます。)を導入することを決議いたしました。なお、2020年11月27日開催の第33期当社定時株主総会において、本制度に基づき、譲渡制限付株式の交付のために対象取締役に対して年額4千万円以内の金銭報酬債権を支給すること、年60,000株以内の譲渡制限付株式を交付すること等につき、ご承認をいただいております。また、2022年11月25日開催の第35期当社定時株主総会において、譲渡制限付株式の付与のために支給する金銭報酬債権の総額を年額6千万円以内と改定することにつき、ご承認をいただいております。

今般、本制度の目的、当社の業績及び各対象取締役の職責の範囲を勘案し、対象取締役に対し本自己株式処分につき現物出資財産として払い込むことを条件に金銭報酬債権合計11,999,064円を

支給することを決議するとともに、対象取締役に対し本自己株式処分を行うことを決議いたしました。なお、本制度の導入目的である企業価値の持続的向上の実現に向けてのインセンティブの付与及び株主価値の共有を実現するため、後記3のとおり、譲渡制限期間は払込期日から取締役を退任する日までとしております。

### 3. 譲渡制限付株式割当契約の概要

当社と各対象取締役は個別に譲渡制限付株式割当契約（以下「本割当契約」といいます。）を締結しますが、その概要は以下のとおりです。

#### (1) 譲渡制限期間 2025年1月10日～取締役を退任する日

対象取締役は、上記期間中は、割当てを受けた当社の普通株式（以下「本割当株式」といいます。）について譲渡、担保権の設定その他の処分をすることができないものとする。

#### (2) 譲渡制限の解除

当社は、対象取締役の退任が、正当な理由によること等の本割当契約に定める理由によるものであることを条件として、譲渡制限期間が満了した時点をもって、当該時点において対象取締役が保有する本割当株式の全部についての譲渡制限を解除する。

#### (3) 当社による無償取得

正当な理由以外の理由により退任した場合等、本割当契約に定める一定の事由に該当した場合には、当社は、本割当株式の全部または一部を無償で取得する。

#### (4) 株式の管理

本割当株式について、譲渡制限期間中の譲渡、担保権の設定その他の処分をすることができないよう、当社が定める証券会社に、対象取締役が専用口座を開設し、管理される。なお、当該証券会社はSMBC日興証券株式会社を予定。

#### (5) 組織再編等における取扱い

当社は、譲渡制限期間中に、当社が消滅会社となる合併契約、当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画その他の組織再編等に関する事項が当社の株主総会（ただし、当該組織再編等に関して当社の株主総会による承認を要さない場合においては、当社の取締役会）で承認された場合には、譲渡制限期間の開始日から当該組織再編等の効力発生日までの期間を踏まえて合理的に定める数の本割当株式について、当該組織再編等の効力発生日に先立ち、譲渡制限を解除する。また、この場合、当社は、上記により譲渡制限が解除された直後の時点においてなお譲渡制限が解除されていない本割当株式を当然に無償で取得する。

### 4. 払込金額の算定根拠及びその具体的内容

割当予定先に対する本自己株式処分の処分価額につきましては、恣意性を排除した価格とするため、取締役会決議日の直前営業日の終値1,419円といたしました。本自己株式処分に係る処分価額は、割当予定先に特に有利なものとはいえず、合理的と考えております。

以上